



研修便り



高知市教育研究所教職員研修班
平成28年9月20日発行 No.87

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成28年度 情報担当者研修会

平成28年6月3日（金）

「子どものネット利用の実態に応じた情報モラル教育を行うために」

講師：金城学院大学 長谷川 元洋 教授

有効な情報モラル教育を行うために必要な三つの教育

予防教育・道徳教育

- ・ 問題発生タイミングを考慮した全体指導
- ・ 教育課程への位置づけ（カリキュラム）

予兆発見時未然防止教育

- ・ 問題の特徴の把握
- ・ ネットパトロールの調査結果の活用
- ・ 全体指導、個別指導

事後指導・事後教育

- ・ 緊急対応指導
- ・ 再発防止教育



校内研修による問題発生時の対応方法検討ワークショップ

- 1 グループごとに「スマホ・ケータイトラブル読本」の事例の一つを選び、トラブル要因や因果関係について考える。
- 2 各事例における技術的要因…青、関係者・機関…黄、人的要因（行動・感情等）…ピンクの付箋紙に書く。（1事象・人物一人につき1枚）
- 3 模造紙に貼りながら、関連を図式化する。
- 4 望ましい状況を黄緑色の付箋紙に書き、ここから学校として取り組むべきことを考える。（高知市立学校教職員ポータルサイトに全グループの成果物有）



※ 資料 「スマホ・ケータイトラブル読本」（愛知県教育委員会サイトよりダウンロード可）

無料通信アプリのやり取りをアナログで疑似体験する授業

★いじめは見えにくい。自分たちの行為が招く結果を想像する力を養おう！

- 1 コメントを一言入れた無料通信アプリの画面を印刷し、ホワイトボードの上部に貼りつけたものを、グループ（4人組）に一つずつ渡す。
- 2 一人ずつ順番に、会話の続きをホワイトボードに書き込んでいく。
- 3 ホワイトボードを回収して黒板に貼り、記載内容を全員で共有し吟味する。
- 4 記載内容から、問題点に気づかせることで、のぞましいコミュニケーションの在り方を考えるようにする。

＜ホワイトボードの例＞



【子どもが的確に判断し、行動できるようになるには（利便性と危険性は表裏一体）】



教師の指導

自分たちの行為が招く結果を想像する力

知識を得る

判断する

行動をとる



＜利便性＞

- ・ どこでもだれとでもつながる。
- ・ なかなか入手できない情報を入手可能。
- ・ デジタル情報は複製したり、改変したりすることが容易である。



＜危険性＞

- ・ どこで、だれとつながるか分からない。
- ・ 自分の情報を、見ず知らずの人が入手できる可能性がある。
- ・ デジタル情報は、自分の手を離れると制御不能になる。

【受講者の感想】

- ・ 「無理なくできる情報モラルの指導とは…授業のなかで行うこと」「普段やっていることに情報モラルの視点を入れる」「繰り返し教えることを精選する」「実態を把握してから、授業をする」「便利さと危険性を一緒に教える」といった基本的な事項を再確認することができた。
- ・ SNSのメリット・デメリットや子どもの利用実態について、まず教職員の共通理解が必要だと改めて感じた。今日の研修内容を職員会で報告し、子どもへのアプローチを具現化したい。

概要 教員としての自覚と経験に応じた授業及び学級経営等の指導力と実践力の向上を図るとともに、教員として資質・能力の向上を図る。

学習指導要領の改訂とこれからの教科指導のポイント ～算数科指導を通して～
講師：横浜市立六浦南小学校 齊藤一弥 校長



AI(人工知能)が人間を超える！？
そんな将来を生きる子どもに学校教育は何をしなければならないか？



今の教育を見直す

☆ これからの子どもたちには…

変化に対応でき、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ「**自立**」した人間として、他者と「**協働**」しながら価値の「**創造**」に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められる

- **自立—主体性**：「人に伝えたいことがある」子どもに！
- **協働—多様性**：「考えを伝え合うことによって、自分の考えを言い直したくなる」子どもに！
- **創造—発展性**：「学びの先を見つめる、自分の考えを振り返るうちに、メタ認知できる」子どもに！

20年、30年後の
子どもたちの姿を
思い浮かべて！



次期学習指導要領で求められる資質・能力の三つの柱

- 1 何を知っているか、何ができるか
- 2 知っていること、できることをどう使うか
- 3 どのように社会、世界と関わり生きるか



「算数」の模擬授業から

角ア

～角アの大きさは？ 分度器は180° だけど測れる？～

- ① およその角の大きさを見積もる → ② 考え方を確認する → ③ 測定の工夫、数理的処理のよさに気付く



① 角ア = 180° + 角イ
で考える

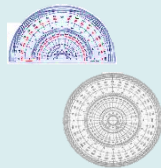


② 角ア = 360° - 角ウ
で考える

「いろいろな考えがあるね」と、終わったのでは不十分。子どもから出たアイデアをまとめていく＝「**統合**」＝「一見異なる考えから、「180°」も360°も、わざわざ測らなくても分かる！」という『**共通性**』がある」ことに着目する。

～授業改善のポイント～

- 思考対象「問い」…**自覚化**
- 思考プロセス…**可視化**
- 思考結果…**知恵の獲得**



全円分度器でなくても**測定可能**である。
既習事項を活用することで**課題を解決**することができる。

すべての教科において、教科ならではの大切な見方、考え方がある。それを授業のなかで、繰り返し伝えていくことが大事！子どもたちは、経験とのズレがあったときに好奇心をもち、学びに向かっていく。処理したことを振り返り、批判的に検討してみる。教科（文化）＝**先人の知恵**を学ぶことから「生き方」を学べる、そんな指導の工夫をしてほしい。



【受講者の感想】

- ・ 模擬授業を受けてみて、ただ課題の提示をし「はい、やりなさい」と子どもに丸投げするのではなく、思考の対象をより明確化し、何を考えるべきかを分かりやすくすることが大切だと痛感した。
- ・ 子どもたちが今もっている力を使ってみようとする態度を育成するために、子どもと課題との距離を近づけ、見通しをもたせ、できそうだと思うさせることが必要だと思った。学習したことの共通性を見出し、統合することの重要性に気付いていなかったの、今後はそこまで目を向けて考えたい。一つのが応用できることに気付くことも学習のおもしろさだと思うので、子どもたちがそこに気付けるような授業をしていきたい。